

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 3271900239 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 弥栄発生活リハビリネット | | |
| 事業所名 | グループホーム ふじいさんち | | |
| 所在地 | 島根県浜田市弥栄町木都賀口291番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年6月12日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年7月31日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------|--|--|
| 評価機関名 | NPOLまね介護ネット | | |
| 所在地 | 島根県松江市白濁本町43番地 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年6月28日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度までは、コロナ禍の状況下で地域交流やご家族の面会等、制限があり、ご利用者の方々の外出もままならない状況でした。スタッフ不足も慢性化していて、福祉施設退職のベテランスタッフや地域の方の支援を受けて、事業所の運営の継続を図っていました。今年度は常勤スタッフも増える予定で世代交代の次期を迎えふじいさんちも新しい展開を目指していかなければいけないと思っている所存です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が地域と繋がりがながら「ゆったりと」暮らせるように職員は理念を共有し実践に努めている。利用者の日々の暮らしの様子や認知症カフェの取り組みを広報誌「やまとたより」を全戸に配布したり、支所の福祉課と連携し地域医療の医学生の実習や看護学生の実習も受け入れて福祉、健康、安全安心な地域作りを思い描いて取り組んでいる。コロナ禍の中でも安全対策を徹底し運営推進会議を開催し情報交換で皆さんの思いをしっかりと受け止め運営に反映している。人口激減の地域の中で職員の働きやすい職場作りの改革にも取り組み、この地域になくはない事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「ゆっくり ゆったり にっこり」を玄関にかかげ、ご利用者の方々の生活に寄り添っていただけるように努力している。 | 職員は日々の生活の中で利用者のケアを振り返り一人ひとりの思いに寄り添い理念を共有し実践している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 野菜市や地域の農家からの農作物や卵等購入している。「やまとたより」という広報誌を町内に全戸配布している。コロナ禍で利用者の方々との交流が制限されていたが、今年度は徐々に交流を増やすことが出来ればよいと思っている。 | 地域との関係は支所の福祉課と協力・連携が出来ていて福祉、健康、安全等に向けて取り組んでいる。認知症に関して広報誌を配布して相談に応じている。地域の方々から野菜や花、雑巾や新聞のゴミ袋等いただくことがよくある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 毎月1回認知症カフェを開催し地域の人々に向けて、認知症の人への理解を深めるような活動を展開している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議での意見や助言はサービス向上に活かしている。会議録は玄関の見やすい所に置いて開示している。 | コロナ禍のなかでも運営推進会議は重要と位置づけ「まちづくりセンター」の会議室を借りて開催し委員の意見や要望等をサービス向上に活かしている。運営推進会議を活用した評価制度の実施に向けて検討中である。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 弥栄支所福祉課の職員の方々には日ごろから連絡をとり、協力関係を築くように取り組んでいる。 | 運営推進会議を通して事業所の実情や相談事等伝え協力関係を築いている。県や市からコロナウイルス抗原キット等配布の情報を得て感染対策や安心した暮らしに繋げている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 2022.12.20内部研修を実施している。夜間のみ施錠、非常口・玄関センサーの設置はあるが、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 内部研修で身体拘束や虐待について行為の理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。運営推進会議で事例検討の相談を行い委員から具体的な説明や理解が得られるよう話し合いをしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 2022.12.20内部研修を実施している。虐待の芽となる「不適切なケア」を減らすように努力をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用されている利用者もあり、以前それらについての内部研修を行ったことがあるが、昨年度は行っていない。現在、成年後見制度を利用している利用者の方がおられるので、関係者とは話し合い支援につなげている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約に関することについては、利用者のご家族に充分説明する機会を作っている。2023.4.23には今年度第1回家族会を開催し説明や話し合いを行っている。欠席されたご家族等には電話や文書で説明したり、要望を聴いたりしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会にて意見や要望を聴いたり、個々の面談や文書でも聴く機会を設けている。 | 年一回家族会を開催し意見や要望を聞いたり、意向調査を実施して情報を共有し運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | スタッフ会以外にも日常的に意見や提案を聴く機会を設け、内容を検討し反映させている。 | 日頃から何でも話し合える関係作りに心がけている。記録用紙の改善や働き方改革に職員の意見を反映させながら更なるサービスの向上に取り組んでいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職場環境、給与や労働時間などについては、理事会に諮り整備に努めているが、不十分・向上心を持てる程ではないと評価している職員もいる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修費用の支援や時間が確保できるように配慮し、トレーニングしていくことを進めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者とのこうりゅうは途絶えたままで、まだネットワークづくりには至っていない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 職員がそれぞれ傾聴した訴えやエピソード等を皆で共有しケアチームとしての関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面接で要望を傾聴し、ご家族の思いもケアプランに落とし込んでいる。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人とご家族のニーズの把握に努め、ケアプランに落とし込んで支援できるように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人の意思に応じて、一緒にお茶を飲んだり、作業をしたりして関係を築く努力をしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人に電話をかけて頂いたり、贈り物をして頂いたり、ハガキや年賀状を送って頂いている。グループホーム側からは、ご本人とご家族の絆を大切にしながら、日々の様子を伝える通信を送っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ドライブで馴染みの場所に寄ったりすることもあったが、全員の方には出来ていない。 | 現在、家族との面会について、コロナウイルス抗原検査で陰性を確認し居室で一緒に過ごしてもらい、関係の継続に努めている。地域の名所にドライブに出かける等支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 会話の橋渡しをしたり、逆に会話からトラブルになりそうな時には間に入ったり、見守りながら支援している。又、座席の配置を検討したりしているが、トラブルも発生している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 相談があった時等、必要に応じて支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 希望の外出や生活スタイル、活動等ご本人の意向に添えるように、本人本位に検討し努力しているが、実現に至らない場合もあり、苦慮している。 | 利用者とゆっくり、ゆったり過ごせる様に関わり、希望や意向の把握に努め、本人本位に検討し支援に繋げている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居される前の情報をできるだけ収集し、更に生活歴のアセスメントシート等を作成し、これまでの暮らしの把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日中・夜間の様子等、記録を見たり、スタッフ間で情報交換し現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人には日ごろの関わりの中で意向を確認したり、話し合ったりしている。直接面談できないご家族には、意向を表現しやすいようにアンケートや調査票を送ったりしてケアプランに反映できるように努めている。 | 利用者、家族からの情報収集や意向を確認し、望む暮らしになるように介護計画を作成している。毎月の会議や日々の申し送り時必要に応じて見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録を活用しながら、スタッフ間で情報共有し、スタッフ会や朝の申し送りの時間を利用して、必要に応じてケアの見直しをしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 事業所の多機能化については取り組みがないが、ご本人の人生の突発的な出来事に対しての柔軟な支援には過去に取り組んだことがある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 昨年度はコロナ禍で地域資源の活用もできなかったが、今年度は地域行事や地域人材の把握をしてグループホームでの暮らしと結びつくような支援ができるように努力したいと思っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月1回の定期受診や必要に応じての専門医への受診に付添い、情報提供を行っている。ご家族には受診の相談をしたり、特変ある時の受診結果の報告をしている。 | 定期受診や専門医受診等家族に相談しながら対応している。医師、家族と情報の共有に努め適切な医療が受けられるように支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 事業所で契約している訪問看護ステーションからの週1回の訪問看護で、看護師にささいなことでも相談出来る体制にあり、支援に活かされている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院された場合等は医療機関との情報交換に努め、安心して治療できるよう、又早期退院出来るように病院関係者との面談にも出向いている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | グループホームでは看取りをしない方針だが、重度化された場合はご家族やかかりつけ医と話し合い、必要な支援に取り組んでいる。 | 入居時に看取りはしない方針を説明している。重度化の状況に合わせて地域の関係者、医師、家族と話し合いながら本人にとって適切な支援が受けられるように取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 全ての職員が実践力を身につけているわけではないので、今後訓練を定期的に行えるように年間計画を作成したいと思っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 昨年度、火災避難訓練は2回、自然災害訓練は1回行った。避難しないで建物にとどまる時の備蓄品も整備している。地域での協力体制は、今年度も運営会議で話し合うことにしている。 | 事業所は高台にあるので自然災害時は待機所になるため備蓄体制を整えている。地域との協力体制は出来ているが今年度の確認は7月に予定されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉かけには気をつけながら対応し、訴えのある時は、なるべくプライベート空間で話を聴くようにしている。 | 利用者を尊重した言葉かけや対応に心掛けている。利用者の思い等、1対1でゆっくり話を聞くことができる場所で対応をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人が自分で選択できるように飲み物等はメニュー表を見てもらったり、思いや希望があるかは常に声をかけ、表出を促して、出来るだけ自己決定できるように支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員本位、業務優先にならないように心がけているが、外出希望等、スタッフの人員配置や全体の動きで時間制約を受けたりして、出来ないことも多い。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節、室温等を考慮しながらさりげなく支援しているが、ご本人のこだわり等が強い方はご本人まかせにしていることが多い。又衣類の購入等はご本人とご家族等に相談している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 出来る事をできる時に一緒にしている。食事の準備で下ごしらえや盛り付けは声をかけている。片づけ等は役割をもってして頂けるように活動を支援している。 | 食事の準備から片付けまでそれぞれ何かに関わってもらうよう声掛けを工夫し支援に努めている。恒例の味噌作りや餅つき等時季の物を一緒に作り楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分補給は1日3回以上行い食事量や食事形態、内容についてもスタッフ間でアイデアを出し合いながら、一人ひとりに応じた支援をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、一人ひとりに声かけをし口腔ケアを支援しているが、全員の方の口腔状態がいつも把握できているとは言えない。拒否される方もおられるので難しいと感じている。今年度7月には歯科健診を予定している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | こまめなトイレへの声かけを行ない記録することで一人ひとりの排泄パターンをつかむ努力をしている。一人ひとりの排泄用品をスタッフ間で話し合っ、情報共有し、自立にむけた支援を行っている。 | 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握することでトイレでの自立に向けた支援をしている。トイレでパッド交換がしやすいように設置している人もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 下剤に頼りすぎないように、かかりつけ医にも相談し、処方を受けている。寒天、オリゴ糖、豆、イモ類等飲食物の工夫も行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 2日に1回は入浴できるようにしているが、時間帯は決めている。一人ひとりの希望やタイミングに合わせて全員の方には出来ていない。ご本人の体調や様子をみながら声をかけている。 | 利用者の状況、状態に合わせて対応しながら、入浴を楽しんでもらえるよう心掛けて支援をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 状況に応じて、自由に休息が出来るように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 誤薬や飲み忘れがないように複数のスタッフで確認するようにしている。処方が変わった時などは、ご本人の様子、変化に注意を払うよう努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 能力を活かした役割を果たして頂いている方もいるが、全員ではなく、楽しみごと、気分転換にまでなっている方は少ないと感じられ、まだまだ支援が足りていないと思われる。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 今までコロナ禍で外出については、困難なことが多かった。今年度は、その日の希望にそってということは出来なくても、一人ひとりの希望を聞いて計画的に戸外に出かけられるよう支援をしていきたいと思っているが、現状の人員配置では難しいと感じている。 | 周辺の散歩や畑作業に出かけ外気浴をしている。普段行けない場所には、計画をして地域の名所の花見や神社参拝、弁当を持って海を見に出かけられるようにするなど支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人の安心感のためにお金を所持されている方もありますが、使えるように支援はしていない。ご家族の要望も今のところはない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話を持参されている方がおられるが、扱い方がわからず支援しているが、自分からかけられる頻度は減っている。電話はご家族の方からかけて頂くことが多い。年賀状やハガキ等を出せるように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 構造的にリビングや食堂は狭く、窮屈な感じがあり、居心地が良いとは言えないが、生活感や季節感を取り入れて花や飾り物をしたり、利用者の方が書かれたイベントのポスターや作品を掲示している。 | 季節を感じる飾りつけや外の景色が見える場所に椅子の配置をし、安全な動線等環境も整えている。利用者の作品を掲示して話題づくりで意欲を出してもらえるよう支援している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 東西の廊下にソファを設置し、外を眺めたり、歌を唄ったり、談話をしたり、思い思いに過ごせる居場所をつくっている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家から持ち込まれたなじみの物を配置したり、ご家族等の写真を飾ったりしている。好きな歌が聴けるようにご家族にCDプレイヤーを用意してもらったり、希望者にはテレビを設置して頂いている。 | 使い慣れた家具や小物、化粧道具やぬいぐるみ、家族の写真を置いている。壁面には好きな歌手のポスターや作品を飾ったり、ラジカセで好きな音楽を聴く人もいるなど居心地よく過ごせる工夫をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 各居室やトイレ・洗面所・浴室等わかるように表示している。安全面では必要な個所に手すりを設置し、ベットのサイドやソファの足元には滑り止めシートを敷いている。一人ひとりの「できること」「わかること」を見極め、対応するよう努めている。 | | |